

『じぶん未来BOOK』で働く喜びを、 リクルートの講演で「世の中」を知り 納得度の高い文理選択を実現

スクールデータ

生徒数/2295人(男子のみ)
普通科55学級
進路状況(2011年度)/
大学・短大進学84.8%、
専各進学8.5%、
就職1.8%、
その他4.9%

福岡県福岡市
博多区東比恵2丁目24-1
電話/092-411-3702
http://higashifukuoka.ed.jp

福岡県では数少ない男子高校である東福岡高校は、1学年19クラスを擁する大規模校で、ほとんどの生徒が4年制大学の進学を目指す。

「学力を伸ばし満足いく進学先へと導くことが、学校として取り組むべき一番の使命だと考えています。そのためにも、いかに生徒のやる気に火をつけ、モチベーションを保つかが、鍵になります」と学校長の松原功先生は言う。

進学コースの改革を目指し 勉強部を設立し、集会を実施

同校には進路希望に応じて4つのコースがある。このうち10クラスを占める進学コースは、他コースと比べると「勉強も学校生活もそこそこいい」という雰囲気になりがちで、部活動に所属していない生徒は特にその傾向が強かった。「ほうっておけば、実力の半分も出せないまま、高校生活が終わってしまうというのでは」というのは、昨年度1学年部長を務めた林健太郎先生。このままではいけないと昨年度、「BK B57(勉強部57期生)」を設立、約30人が入部した。放課後は毎日集まって勉強し、夏休みには合宿を行って前向きに頑張るムードを作ってきた。

た。並行して、生活態度や学習態度について、林先生が気づいたこと、改善してほしいことを伝える「コース集会」も繰り返し敢行。これにより、昨年度、進学コースでは遅刻や欠席を大幅に減らすとともに、成績を伸ばすことができた。

理系科目に挑戦する 生徒が例年より増加

進路指導の面でもテコ入れが必要だった。1学年の大きなテーマである文理選択に向けて、生徒たちには、もっと広い視野をもち、夢や目標をみつけてほしい。そう考えていた矢先に『じぶん未来BOOK』と出会った。

「どんな仕事もやりがいがあるとわかり、感動しました。働くことを大変だと考えている生徒は多いですが、これを読めば前向きになれると思いました。また、本を活用した講演を実施いただき、生徒の視野を広げることができました」と林先生。

まず5月に、懇談会で保護者に文理選択の流れを説明するとともに、『じぶん未来BOOK』を見てもらい、内容やこの本を使用するのらいいを説明した。

その後、1学年全員を対象にリクルートによる講演を行った。将来どう働きたいかを考えたうえで文理選択をすることの大切さや、企業が学生に求める力について話を聞き、大学卒業後の未来を思い描くきっかけになった。

7月には、LHR2回を使って、各自が『じぶん未来BOOK』の気に入ったページを読む時間を設けた。真剣に読む生徒たちの姿に、林先生は「本の魅力が伝わっているな」と感じたそうだ。

10月には、全員に「文理・科目選択応援BOOK」を配り、LHRに各クラスで教科書として使用。各担任が自分のもつ情報を交えて解説し、社会で求められる力、文理選択のポイントなどについて学んだ。その後、個別面談を行い、12月に文理選択の最終決定を行った。

「なんといっても大きな変化は理系クラスが例年より1クラス増え、4クラスになったことです。今回の取り組みを通じて、自分の興味・関心を素直に見つめ、難しい科目に挑戦したいという気持ち芽生えたのではないかと思います。今年度は、そのやる気を大切に育てたいと考えています」と林先生。

リクルートサービスを活用した指導実践例

リクルートの講演の様子



講演は大画面のスライドを使って行われた。講演者は一方的に説明するのではなく、生徒に問いかけて考えることをうながすシーンが多かった。生徒たちは自然に引き込まれ、少し先の未来を前向きに考えるきっかけになったという。

じぶん未来BOOKの誌面



『じぶん未来BOOK』では50人の職業人が仕事のやりがいやこだわり、夢を語っている。「新しいことに挑戦」「誰かのために頑張る」など、「適性」や「社会への貢献の仕方」を基準に分類されているのも特色。写真と文章の内容に、「将来に対する前向きな気持ちわいてくる」という評価の声が寄せられている。



学校長(左)
松原功先生
2学年部長(右)
林健太郎先生

「当たり前前のごことを当たり前前にはできる社会人基礎力の育成にも力を入れています」(松原先生)。「教育に手詰りはない。愛情と情熱をもって生徒の指導にあたり、工夫と改善を繰り返せば、必ず道はひらけると信じています」(林先生)